

南ヶ丘小学校便り 第8号

校訓【心をみがき 体をきたえ 夢を大きく】

令和2年8月24日

文責：北里 敦

○前期後半がスタートしました。

前期後半が始まり、子供たちの声が校舎中に響き、学校中が活気に満ちています。夏休みは、子供たちは学校での学習や規律のある生活から離れ、自分の立てた学習計画や生活のリズムで、各ご家庭において落ち着いた時間を過ごせたことと思います。今年の夏休みは、事故等の連絡もなく夏休みが無事に終わり安堵しています。今日は、子供たちが元気に登校できました。保護者のご指導のおかげと感謝申しあげます。私たち職員一同、今後も子どもたちの力を付けるために精一杯頑張る所存です。

これから12月までは、学校生活の中でもっとも充実した期間です。学習内容については内容も豊富で季節もよく、落ち着いて取り組むことができる期間です。新型コロナウイルス感染防止に十分に気を付けながら、各学級・学年が一つにまとまり、友達と協力して向上する喜びを実感できる教育活動を実践していきたいと考えています。一人一人の子供たちが意欲的に学習し、協力して主体的に活動しつつ健やかに成長できますよう、ご協力ご支援の程よろしく申し上げます。

* 新型コロナウイルス感染症に関わる差別や偏見の未然防止について

8月12日に安心メールで配信しましたように合志市内において児童の感染が確認されました。学校が始まり、今後さまざまな場面での感染が心配されます。さらに感染症に対する差別や偏見が起きることも大変懸念されます。差別や偏見の未然防止についてご家庭におかれましても十分に話し合わせてください。

新型コロナウイルス感染症が広がるにつれて、感染した方やその家族、感染した方々の治療に当たる医療従事者などに対する差別や偏見など、様々な人権侵害が発生しています。

このような行為は、決して許されるものではありません。

新型コロナウイルスには、だれだって、いつだって、感染する可能性があります。

○病気にに対する不安はだれにでもあります。

見えないウイルスへの不安から、感染が広がっている地域の人や、マスクをしていない人、外国から来た人などを嫌悪の対象としてしまうなどの差別や偏見が起こります。

○自分のことに置き換えて考えてみましょう。

差別や偏見の矛先が、「もし自分だったら」、「もしうちの子もたら」と自分のことに置き換えて考えることが、差別や偏見の未然防止につながります。

○「不安」を解消するために・・・

私たち大人が SNS 等で差別的な言動に同調したり、根拠のない不確かな情報を拡散したりしないようにしましょう。

「熊本県教育委員会人権同和教育課の資料」より

○「次亜塩素酸水」の寄贈、ありがとうございました。

先月（7月27日）、1年2組の大塚ひゅうごさんのお父様から本校に次亜塩素酸水（消毒液）を寄贈していただきました。学校ではコロナウイルス感染防止のために机等の消毒を行っています。消毒液は不足しがちです。早速、消毒に使わせていただきました。大塚様、貴重な次亜塩素酸水の寄贈、大変ありがとうございました。

8月24日の全校集会（校内放送）では次のような話をしました。一部を紹介します。

1 「健康で元気な学校生活を送りましょう。」

新型コロナウイルス感染拡大が大変心配されます。自分の命や自分の周りの人の大切な命を守るために、感染防止に十分に気を付けましょう。コロナウイルス感染について偏見や差別を絶対にしないようにしましょう。また熱中症にも十分に気を付けましょう。

2 「相手の顔を見て、明るく元気なあいさつをしよう。」

前期前半、皆さんは挨拶に取り組んできました。さらに南ヶ丘小の全員で素晴らしい挨拶をしましょう。学校や家庭、地域で相手の顔を見て元気な挨拶に取り組むようにしましょう。

